各企業等の社会貢献

旭山動物園へ氷柱10本寄贈
思わぬ〝涼〟に生き生き
魅力づくりを支援―国昭建設

国昭建設㈱（札幌、山崎雅博社長）は二十五日、社会貢献活動の一環として旭川市旭山動物園に氷柱十本を寄贈。同社旭川支店の職員らが中心となって搬入、設置作業に取り組み、暑さに弱い動物たちに束の間の〝涼〟をプレゼントした。

同社では小中学校などが夏休みを迎えるこの時期、旭山動物園に氷柱をプレゼント。暑さに弱い動物たちを中心に氷柱で涼を取らせ、生き生きと活動する姿を来園者に見てもらえればと取り組んでいる。

活動もことしでちょうど十年目を迎えるとともに、その功績が高く評価され、平成二十二年度には旭川市長から感謝状を受け取った経緯がある。

当日は開園前に作業を進めるため、早朝から大類園旭川支店長をはじめ職員八人と、協力会社から三人の計十一人が出動。動物園の職員らの協力を得ながら氷柱十本を各動物舎に搬入、設置作業に汗を流した＝写真上＝。

氷柱は一×〇・六×〇・二三㍍で重さ約百三十五㌔。北極クマに四本、ニホンザルとチンパンジーに各二本、ペンギンとオランウータンに各一本をそれぞれプレゼントした。

開園とともに飼育舎から出てきた動物たちは、思わぬプレゼントに体を寄せ付けたり、口にくわえたりして遊ぶなど、来園者にその愛くるしい姿を見せていた＝写真下＝。

同社では「世界に誇る地元動物園の魅力づくりの一助になれば」と今後も活動を継続する考えだ。

盛永組が東川町で縁石の除草
景観美化へ熱心に作業
恩返しの気持ち込め

【旭川発】㈱盛永組（旭川、盛永喜之社長）は二十八日、地域貢献の一環として、東川町の町道で縁石の除草を行った。社員十一人が六㌔㍍区間で縁石に生える雑草を手際に刈り取った＝写真＝。

同社は過去に旭川開建発注の護岸工事を東川町内で施工。「工事でお世話になった住民の皆さんに恩返しがしたい」と考え、四年前から町道の除草を行っている。

社員ら十一人が縁石と車道や歩道の間に生える雑草を刈り払い機やスコップなどを使って除草。夏の観光シーズンを間近に控えているため、景観の美化に貢献しようと丁寧に雑草を刈り取った。

当日作業を取り仕切っていた加賀恒夫常務取締役は「観光シーズンで多くの観光客が東川町を訪れるので、少しでも景観の美化に貢献したい。これからも取組を続けていく」と話していた。

奉仕作業に対し錦岡保育園
東海建設へ感謝状贈呈
園庭にナナカマドなど植樹

【室蘭発】東海建設㈱（室蘭、中田孔幸社長）は二十二日、苫小牧市内の錦岡保育園から感謝状を贈呈された＝写真＝。地域貢献活動の一環として園庭に植樹を行ったことが評価されたもの。同保育園では、「子どもたちも非常に喜んでくれている」と話していた。

同社では今月四日、錦岡保育園において植樹ボランティアを実施。ナナカマドなどを植え、園庭を色鮮やかに彩った。

今回の感謝状贈呈は、この取組に対するもので、当日は同社員七人が出席。四本やエゾヤマツツジ一本などを植え、園庭を色鮮や角田英輔現場代理人が代表者として、山田邦道理事長から感謝状を受け取った。山田理事長は「子どもたちも非常に喜んでいる。心から感謝をしたい」と話していた。

菅原組が松前町で街頭啓発運動
安全運転の重要性訴え
地元の児童らも参加

【函館発】㈱菅原組（函館、菅原修社長）は十七日、松前町を走る国道二三八号の道の駅「北前船・松前」で、交通安全の街頭啓発運動を実施した。同社員のほか、地元のスポーツ少年団に所属する児童らも参加。夏期を迎え交通量が増える中、ドライバーに安全運転の重要性を訴えた。

夏の交通安全運動に合わせ、平成八年から継続している運動。ことしも同社の呼びかけにより、地元のサッカー少年団や野球少年団、スクールバンドに所属する児童らが駆け付け、総勢八十二人で交通事故の防止を呼びかけた＝写真＝。

参加者は、交通ルールの順守を呼びかける黄色のたすきを掛け、安全旗を手に、飲酒運転の根絶やシートベルトの全席着用、スピードダウンなどを要請。停車したドライバーには、「スピード出したらわかめぇ～ぞ！」と書かれた松前産わかめを配り、交流を深めた。

菅原社長は、多くの参加者に謝意を表するとともに、「今後も活動を継続していきたい」などと意欲を示していた。

厚沢部建協が太鼓山の広場で
老朽化した木霊塔補修
きれいな眺望を楽しんで

【江差発】厚沢部建設協会（能登谷謙一会長）は二十七日、厚沢部町太鼓山の頂上付近にある木霊塔の補修と展望台の撤去作業を行った＝写真＝。十八人が参加。木霊塔にペンキを塗って防腐処理を施したほか、チェーンソーで木製の展望台を解体し、環境整備に貢献した。

標高百七十一㍍の太鼓山の頂上付近に広場があり、木霊塔と展望台がある。いずれも木製で老朽化が進んでいるため、町の要望を受けて補修と解体撤去を行うことになった。

参加者は軽四輪で遊歩道を途中まで登り、そこから約二百㍍ほど歩いて広場に着いた。高さ約五㍍の木霊塔は、大人が両腕で抱え込んでも手が届かない太さ。古くて傷みが激しいため、この日のために用意した銅板のカサを木霊塔の上にかぶせ、防腐処理のペンキを全体に塗り、併せて木霊塔の文字を黒く塗り直した。

朽ちて崩壊する恐れのある展望台については、チェーンソー二台と手ノコで解体撤去した。本職が建設業の参加者は、持ち前の技術を発揮して速やかに作業を終えた。倉谷弘事務局長は「町民の皆さんが頻繁に来る場所ではないが、ぜひ山に登ってきれいになった木霊塔を見てほしい。木霊塔をバックにして、広場から街並みを眺めてほしい」と話していた。

自歩道の清掃活動に汗
北央道路工業など2社が協力

北央道路工業㈱（札幌、澤口二朗社長）と丸栄山下建設㈱（札幌、三澤朗社長）は二十五日、白石区南郷通付近の自転車・歩行者専用道路「白石ころーど」で清掃活動を実施した。二十人が参加し、地域の環境美化に貢献した＝写真＝。

日ごろお世話になっている地域に対して、二社が協力し貢献しようと昨年に続き二回目の実施。昨年は同敷地内でバラの花壇の草刈りを実施しており、ことしは白石区土木センターと相談し、清掃活動を行うことになった。

この日は、北央道路工業から澤口社長をはじめ役職員十一人、丸栄山下建設から三澤社長をはじめ役職員九人の計二十人が参加した。

小雨が降る蒸し暑い天候の中、参加者はカッパを着用し、南郷通四丁目南エリアと南郷通十八丁目南エリア方面に向け、二班に分かれてスタートした。

片道二・八㌔㍍区間で活動を展開し、市民の憩いの場でもある白石ころーどの美化に貢献しようと、空き缶やペットボトル、吸い殻のほか、捨てられた傘など、ごみ袋十袋分を収集。区域内からごみを一掃し、美しい歩道を取り戻した。

両社は、今後も活動を続けていく予定。

クリーンアップ作戦とパネル展実施
道路ふれあい月間の取組―稚内開建

【稚内発】稚内開建は、八月から始まる「道路ふれあい月間」に先立ち、三十一日午前九時三十分から、稚内中央地区道路クリーンアップ作戦を開催する。開建のほか、稚内建管や稚内市と共催で実施。地域住民などと一緒になって、「道の駅わっかない」を中心に、国道、道道、市道の清掃活動を行う。

また、八月三日から三十一日にかけては、稚内地方合同庁舎で、管内の道路改築事業やシーニックバイウェイなどを紹介する道路に関するパネル展も開催する。

26年度2級土木施工技術検定（学科試験）
企業委託生全員合格、学校全体91.7%合格
土木・造園施工管理技士 通算3年(在学1年+実務2年)で2級取得可能です。
国家試験免除で 測量士補(卒業時) 測量士(卒業後2年)
企業委託生 募集中！ 授業料一部免除（年額10万円）「キャリア形成促進助成金」利用可能
学校法人 常松学園 札幌工科専門学校
〒007-0895 札幌市東区中沼西5条1丁目8-7 ☎(011)791-5050(代)
詳細は「札幌工科」で 検索